

私立大学図書館協会
国際図書館協力委員会
委員長 臼井 文子 様

立教大学図書館 江原つむぎ

2010 年度私立大学図書館協会海外認定研修報告書

内容

1. はじめに.....	2
2. 参加目的.....	2
3. ハワイ大学マノア校シンクレア図書館.....	2
4. 学習環境の改善.....	4
5. リノベーション戦略.....	6
6. 学習支援ウェブサイト：LILO (Learning Information Literacy Online)	7
7. 日本への応用.....	8
8. 最後に.....	9
9. 参考文献・参考 URL.....	9

1. はじめに

このたび、ハワイ大学マノア校シンクレア図書館を訪問する機会を得られた。訪れたのは、秋学期もひと月ほど経ってキャンパスが落ち着き始めた 2010 年 10 月 8 日である。ハワイ大学の Japan Specialist Librarian である Tokiko Y. Bazzell さんから学習支援に取り組んでいるシンクレア図書館を紹介していただいたの訪問であった。

2. 参加目的

日本でも、これまで以上に大学、そして大学図書館が学生の学習支援に力を入れている昨今、ラーニングコモンズに代表されるようなサービスを展開するために図書館がどのように設備や、人的サポートを整備し、他部署とどのように協力しているのかを学びたかった。また、サービスを開始するまでの道のりだけでなく、利用状況なども実際に目にした上で日本にも応用できる点を見つけたかった。

3. ハワイ大学マノア校シンクレア図書館

1907 年創立のハワイ大学は、ハワイ州内 6 つの島に 10 のキャンパスを持つ公立の総合大学である。現在 134 の学士課程、90 の修士課程、52 の博士課程、その他の各種専門課程をあわせて 658 ものプログラムを展開している。シンクレア図書館があるハワイ大学マノア校はハワイ大学の主要なキャンパスで、人文科学系学部（文学部、社会学部、教育学部など）と自然科学系学部（数学、物理学、化学、動物学、植物学、生物学な



図 1 シンクレア図書館外観

ど)、工学部など 20 学部で学部学生約 14000 人、大学院学生約 6400 人を抱えている。特



図 2 シンクレア図書館入口

徴的なのはハワイと言う立地と深く関わりのある熱帯農業学や地球海洋科学の学部を持っていることだろう。図書館では、シンクレア図書館のほかにハミルトン図書館、医学図書館、法律図書館、天文学図書館がある。ハワイ大学全体で約 51000 人の学部学生、約 7000 人の大学院学生がいるため、大学院学生のほとんどがマノア校に所属しているといえる。

シンクレア図書館は、1956年に設立され当時の学長 Gregg M. Sinclair にちなんで命名された。10万アイテムを超える書籍、雑誌、sheet music（綴じられていない状態の楽譜）、AV資料（ビデオ、CD、DVD、カセットテープ、レコード）を所蔵している。ちなみにハワイ大学図書館システム全体では、23の分館に335万アイテムの書籍、2.6万タイトルの雑誌、6万アイテムのAV資料など膨大な量の資料を所蔵している。

シンクレア図書館は、地下1階、地上4階の5階建てで、主に音楽図書館 (Music Library) としての役割と学部生向け図書館 (Undergrad Library) としての役割も持つ。そのため、3階に Wong Audiovisual Center というAV資料を集めたセンターを、1階に Student Success Center を設置している。

今では学内施設の多くに窓ガラスがはめられているが、年間を通しての温暖な気候のハワイにおいて、1950年代には窓ガラスをはめなくてはならないという発想がなかったようである。図3、4のように木製もしくはガラス製のブラインドが強い日差しを避けるために窓ガラスの代わりに取り付けられている。



図3 ガラスのはめられていない窓



図4 窓には木製もしくはガラス製のブラインドが掛かっている

図4は、ある学習スペースの横に位置するテラスから別棟のブラインドを写したもので、写真手前の学習スペースには窓ガラスもブラインドもなく、開け放たれていた。ブラインドだけでは隙間がたくさんあるため、小鳥が迷い込んでくることも珍しくない。筆者が訪問した日も館内で2羽ほど小鳥を見かけた。しかし、人間が過ごすにはブラインドで十分でも資料は温度にも湿気にも注意をしなければならぬ。気になったのは小鳥よりも砂埃がたくさん入り込んでいたことである。

資料保存の観点からシンクレア図書館でも問題になっていたようで、書架がある2階とAV資料・機器がある3階に窓ガラスをはめ、エアコンディショナーを取り付けて環境を改善した。

4. 学習環境の改善

資料のために窓ガラスとエアコンディショナーを設置して保存環境を改善したのに対して、学習環境の改善には多様な学習スペースやサポートスタッフの配置、カフェの導入、オンラインツール開発などがなされている。オンラインツールについては次項で扱うこととする。学習スペースの大半は窓ガラスがない場所や壁もしくは窓ガラスに囲まれてはいるがエアコンディショナーはない。



図 5 空きスペースに設置したグループ学習スペース

Geary さんによると、まずはすぐに取り掛かれるところから対応してきたことで、空いているスペースに余っている家具類を設置してディスカッションなどもすることができるようにしている。図 5 では、おそらく以前は作業室であっただろうスペースに丸机と椅子、そしてホワイトボードならぬペーパーボードが用意されている。壁にはホワイトボードも取り付けられている。特に予約をする必要はなく、空いていれば使える。

しかし、図 6 にあるように図 5 の右側に扇風機がエアコンディショナーの代わりの空調設備として使われている。ここでもガラス製のブラインドが用いられている。午前中の早めの時間に訪問したためか、見学中には学生はいなかったが、前回ディスカッションをしていた様子がペーパーボードの書き込みからうかがい知ることができた。このスペースの家具の配置は、アメリカの図書館にしては隣との距離が近いように感じた。



図 6 エアコンディショナーのない学習スペース

昔ながらの板の仕切りが取り付けられた個人用のキャレルはなく、ひとりで学習するためには細かいメッシュ生地スクリーンで仕切られた机が用いられていた。この机とスクリーンは、1 階の個人学習スペースのほか、コンピュータールーム、3 階の Wong Audiovisual Center の視聴スペースでも使われていた。1 階ではジグザグになるように組み立てられ (図 7-1,7-2)、3 階では 3 人で円を描くように組み立てられていた (図 8)。これからの学習スペースには semi-privacy と flexibility という考え方が欠かせないのだと Geary さんはおっしゃっていた。事実、隣に人がいるということ

はわかっても、何をしているのかは見えなようなメッシュ生地のスクリーンが使われていたし、組み立てにバリエーションがあった。



図 7-1 1階の可動式スクリーン

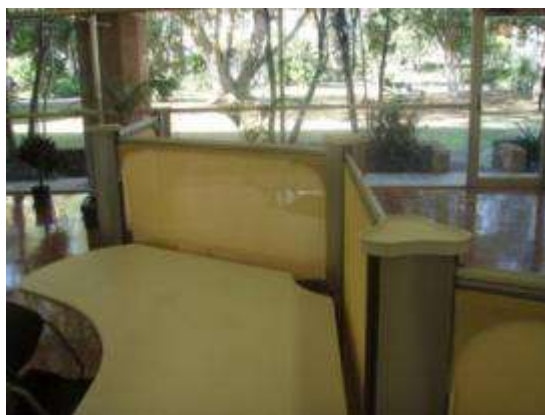


図 7-2 1階の可動式スクリーン (拡大)



図 8 3階の可動式スクリーン

この家具であれば、手伝ってくれる人さえ確保できれば、ジグザグから円形に変えるのも数時間で可能である。次回シンクレア図書館を訪れたときには1階と3階の並べ方が逆になっているかもしれないし、また違った並べ方になっているかもしれない。用途に応じて組み替えが簡単にできるのは大きな利点である。

ちなみに、シンクレア図書館でも2006年の11月からテスト期間中の24時間開館を実現

している。アメリカでは図書館の24時間開館サービスを展開している大学が多くあるが、これは、学生の住環境と生活スタイルが日本とは大きく異なっていることが理由に挙げられる。日本では実家でなくても独り暮らしをしている下宿先から大学に通う学生が圧倒的に多いが、1年次に学内寮に入ることを義務付ける大学があるようにアメリカでは大学に住む学生が多い。2年次にあがって寮を出ても学校まで徒歩10分程度の距離に住む学生が多い。日中の授業が終了した夕方に部屋に戻って食事をしてから、図書館に行って予習復習と課題に取り組むという生活スタイルである。

5. リノベーション戦略



図 9 ラーニングコモンズにあるカフェ(予定) 売)する。カフェの導入に際して学内や図書館内からは、やはり図書館への飲み物持ち込みに対する強い反発があったのだという。Geary さんは「長時間ディスカッションをしたら誰だって喉が渇く。学生はディスカッション中に喉を潤すことが許されないとしたら、あなたたちも会議に飲み物を持って行ってはいけない。」と粘り強く説得したのだそうだ。

柱にかかっている垂れ幕には「THE COMMONS」と書かれている。多様な学習スペースを用意しているシンクレア図書館でも、ここは(ラーニング)コモンズとして展開していくのだそうだ。インフォメーションコモンズがコンピュータ端末や閲覧席といった設備面の整備を指すとすれば、ラーニングコモンズは、インフォメーションコモンズに機器の操作指導やレポートの作成指導といった人的整備を加えたものといえるだろう。シンクレア図書館ではラーニングコモンズは図書館の中にあるひとつのスペースというよりも、図書館全体が大きなラーニングコモンズといった印象を受けた。

コモンズも他の学習スペースと同様に使用中のスペースを少しずつ改修しながら作り上げている。図 9 左奥に見えているものに近づいて撮影したのが図 10 である。使われていないスペースに使われなくなった大型机と椅子を配置し、ホワイトボードを壁に設置している。この空間は、訪問日には開放的な空間だったが、数日のうちに可動式の大型半透明スクリーンを導入して semi-privacy を確保した空間にするということであった。



図 10 カフェ奥の勉強スペース

また、図 9 のカフェの右手前には他のグループ学習スペースよりもプライバシーが確保されたグループ学習室がある(図 11)。ここでも仕切りは半透明で semi-privacy の考え方が実践されている。このグループ学習室は、グループディスカッションではなく、チューターを利用する学生が主に使用するとのことであった。予約制で、それぞれの学習室の入り口に予定表が張られていた。ちなみに、



図 11 カフェ横のグループ学習室

カフェの向かいには英語学科 (English Department) の学生スタッフによるライティングセンターが設置されている。ライティングセンターには 3 つのブースがあり、2 人の学生が利用していた。

座席がすべて埋まっていたために写真を撮ることができなかったのだが、同じ階にコンピュータールームもあり、連日にぎわっているとのことであった。コンピュータールームの設置にあわせてガラス窓とエアコンディショナーを取り付けたのだそうだ。以前は製本雑誌が並べられていたそうだが、貴重なものを 2 階の書架に移して、電子ジャーナルで閲覧することができるものはすべて処分したのだという。コンピュータ端末と学生サポートスタッフはメディアセンターの予算でまかなっているのだそうだ。ここでもコモンズのカフェと同様に図書館は場所と利用者を提供し、その他の部署が必要な設備と人材を提供して協力するスタイルが成立していた。

6. 学習支援ウェブサイト : LILO (Learning Information Literacy Online)

人的サポートのほかに図書館が展開しているサービスが LILO と名づけられたオンライン情報リテラシー学習支援ツールである。もともとはノースカロライナ州立大学が作成したオンラインツールで、ハワイ大学用にアレンジして 2006 年にサービスを開始したものである。

文字情報のほか、ビデオやウェブサイトなどを組み合わせて大学レベルのレポート課題の取り組み方を学べる。課題の完成までを大きく 6 つのステップにわけ、それぞれのステップをまた細かくわけて少しずつ確実に理解しながら進めるように工夫されている。6 つのステップとは、それぞれ 1. 研究過程を理解する (研究過程とは何か、なぜ重要なのか、研究過程を理解することの効果は何か)、2. 課題を理解する (教員が求めているものを理解する)、3. 研究戦略 (テーマを選択し、問題提起をはっきりさせる)、4. 調査の実施 (適切なデータベースを選び、効率よく検索し、求める検索結果を手に入れる)、5. 評価 (提起した問題を裏付けるためにどのように関連の強い明確な根拠を選ぶか) 6. 仕上げ (執筆の作法、剽窃の回避、主張と論拠の関係確認、引用方法) である。

アカウントを作成すれば、取り組んでいるレポート課題の進捗状況などを管理することもできる。中でも秀逸な機能は、**Assignment Calculator** であろう。今日の日付と課題の提出期限日を入力するだけで上の6ステップを少し細かくした12ステップをどのステップを何日までにするかは自動的にはじき出してくれる。丁寧にリンクを張ってくれているので、それぞれのステップをどのようにクリアすればよいのかの手引きもなされている。また、学生向けだけでなく、教員向けにもメニューを用意している。そこでは、**LILLO** がどのように学生の情報リテラシー向上のためにサービスを行っているのか、また情報リテラシーがどれだけ重要な能力なのかを説明し、有用なビデオやウェブサイトを紹介している。

7. 日本への応用

今回の訪問で強く感じたことは、図書館職員が柔軟な考えを持っていることであった。ともすると、日本の大学図書館には、建物もしくは教室の壁を壊したり塗り直したりしてからでないというラーニングコモンズは作れないといった感さえ漂っているような気がしているが、シンクレア図書館は、既存の建物を壊すことなく図書館全体がラーニングコモンズとして機能していた。確かに、建物自体50年以上経っているし、家具類も新しくないものも多く、窓ガラスのないスペースも目についた。しかし、**Geary** さんが繰り返しおっしゃっていた「できることから進めていく」と「図書館は場所と利用者を提供する」を実践している姿はとて頼もしく映った。

今後、大学図書館は学習支援の面だけを取っても、図書館だけでは提供を完結できないサービスを展開していくことだろう。図書館内のコンピュータ端末は図書館が購入し、維持管理をするということも台数が増えれば難しくなるだろうし、端末さえあればよいというのではなく、サポートスタッフを常駐させる必要も出てくる。レポート作成のサポートも図書館員が担当をするにはどの大学も能力を問わず、人員が圧倒的に少ない。オンラインチュートリアルにしても独自に開発をしようとするれば、莫大な費用と時間がかかり、なおかつ開発の技術的な能力とコンテンツを理解する知識を持ち合わせた人材を確保しなくてはならない。授業でも課題でもグループワークが増えているし、ディスカッションをする機会も増えている。しかし、おしゃべりはもつてのほかで、会話はなるべく小声とするような雰囲気のある図書館が、このままでは学生からディスカッションをする場として利用してもらえないようにはなれない。ディスカッションをして喉が渇いたときにカフェが学習スペースのそばにあればよいが、おそらくカフェの導入は困難な図書館が多いだろう。学生は、カフェがないから図書館を使わないのではなく、喉を潤すことができないから使わないのである。ウォータークーラーがあっても、バッグに入っているペットボトルの中身のほうを飲みたいと思うのは自然なことだろう。無秩序的に飲食可能にするのではなく、グループ学習室内のみ蓋つきの飲み物を認めるといったゾーニングで対応できるのではないかと期待している。

整えたい設備や人材はある。しかし、費用がない。だからこそ、費用をなるべくかけずに「できるところから進めていく」姿勢が重要になるのである。設備も人材も学内を見渡せばきっと協力してくれる部署がある。「図書館は場所と利用者を提供する」代わりに協力してくれる部署からは設備と人材を提供してもらおうのである。たとえば、メディアセンターの学生スタッフはコンピュータの知識をかなり持っているだろうし、大学院学生はレポート作成のノウハウを身につけているだろう。こういった人材を図書館で活用するのである。図書館が提供するもののひとつが場所であるから、学生がディスカッションをしやすいようにテーブルや椅子、隣が気にならないようにスクリーンを用意する。これらは必ずしも新品である必要はない。オンラインチュートリアルやウェブサイトには、いい物を積極的に導入する。ハワイ大学でも他大学が開発したものを使用していたし、学外のウェブサイトへリンクがたくさん張られていた。図書館員に求められるのは、いい物を見分ける能力と典拠を明確にし、リンク依頼を適切にするなどの情報化社会に必要なマナーである。

8. 最後に

直接お目にかかることはできなかったが、忙しい中を窓口になって対応してくださった Japan Specialist Librarian の Tokiko Y. Bazzell さん、そして丁寧な案内と説明をしてくださったシンクレア図書館館長の Gregg S. Geary さんに心からの感謝を申し上げたい。

また助成をしてくださった私立大学図書館協会海外認定研修ご担当者様方にもこの場を借りてお礼を申し上げる次第である。このような機会が与えられることによって、ひとりでも多くの大学図書館員が国外の大学図書館に訪問して、見識を深められるのである。おそらく自館に閉じこもっているよりも新しいアイデアが湧いてくるのではないだろうか。

今後は、これまでの伝統的な役割に加えて、ますます大学図書館員に学習支援の役割が求められるようになるし、図書館だけでは到底維持できないサービスも展開していくようになる。ハワイ大学の取り組みを十分に参考にして、将来を楽しみに迎えたいと思う。

以上

9. 参考文献・参考 URL

- Learning Information Literacy Online (LILO). Retrieved January 26, 2011, from <http://www.hawaii.edu/lilo/>
- Quirk, R. P., & Arakawa, M. LibGuides. Student Success Center. Retrieved January 26, 2011, from <http://guides.library.manoa.hawaii.edu/gohere>
- Sinclair Library. Retrieved January 26, 2011, from <http://www.sinclair.hawaii.edu/>
- Sinclair Library: Wong AudioVisual Center. Retrieved January 26, 2011, from <http://www.sinclair.hawaii.edu/wavc/>